

平成 29 年 9 月 27 日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

1. 学校名・担当者氏名: 兵庫県立明石北高等学校 伊藤 操

2. 講師氏名: Cristina Castillo

3. 同行者氏名: 辻村 雄紀

4. 実施日時: 平成29年 9 月 27 日 (水) 9:35 ~ 11:15

5. 参加生徒: 3 年生 73 人、 年 生 人、 年 生 人 (合計 73 人)

備考: (例:理数科の生徒) 普通科 理系の生徒

6. 講演題目: Archaeobotany and human interaction

7. 講演概要:

講師の生い立ちと研究者になるまでのキャリアについて。植物考古学についての説明と講師がこれまで発掘した現場の説明、現在取り組んでいる研究や実験に関する説明があった。また、実際に野生種の稲やその他の豆や雑穀のサンプルや、実験に使われている古代の稲の刈り取りの道具(石包丁のレプリカ)などを持参していただいた。

8. 使用言語: 英語 (時々日本語)

9. 講演形式:

(1) 講演時間 80 分 質疑応答時間 20 分

(2) 講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など)

プロジェクター使用による講演、実験・実習はなし

(3) 通訳 (例: 同行者によるサポート、外国人研究者本人による日本語説明)

同行者には、専門的な内容で、必要と思われるときに通訳してもらいました

(4) 事前学習時使用教材(事前学習を行った場合のみ)

講師の作成したパワーポイントや abstract、専門用語を授業で予習しました

10. その他特筆すべき事項:

講師の先生が、生徒の表情を見ながら、話をしていただき、生徒には大変わかりやすかったです。また、サンプルなどを持ってきてくださり、生徒は具体的に研究内容がわかって、感激していました。最後に、日本料理に使われている様々な野菜などが世界各地原産であることもわかり、考古植物学を身近に感じることができました。